

FIXING DEVICE FOR DISTRIBUTION BOX

Patent Number: JP5003617
Publication date: 1993-01-08
Inventor(s): NAKAZAWA HIDEKAZU
Applicant(s): MATSUSHITA ELECTRIC WORKS LTD
Requested Patent: ☐ JP5003617
Application Number: JP19910153540 19910625
Priority Number(s):
IPC Classification: H02G3/12; E04G9/10
EC Classification:
Equivalents:

Abstract

PURPOSE: To provide a rust-resistant fixing device used for a distribution box and capable of adjusting the positional height of the distribution box.

CONSTITUTION: A fixing device for a distribution box comprises a channel-shaped body 2 made of sheet metal and a mounting stand 3 for mounting the body on a form. A central part 21 of the body 2 is used for mounting the distribution box and has a screw hole 21a for fixing a screw on the bottom face of the distribution box. The body 2 has a notched part 22a made up of a plurality of notched steps at each elongated part 22 thereof, and at each notched step part 22a the elongated part 22 can be bent and cut off. The mounting stand 3 has each slit 31 to be inserted by the elongated end part of the body 2 and has a nail hole 32 for nailing the body to the form. Through the body and the mounting stand, each screw hole 33 or 22b for temporary fixation is provided.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平5-3617

(43) 公開日 平成5年(1993)1月8日

(51) Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 2 G 3/12	C	9175-5G		
E 0 4 G 9/10	1 0 4	6935-2E		

審査請求 有 請求項の数 1 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平3-153540

(22) 出願日 平成3年(1991)6月25日

(71) 出願人 000005832

松下電工株式会社

大阪府門真市大字門真1048番地

(72) 発明者 中沢 英一

大阪府門真市大字門真1048番地松下電工株式会社内

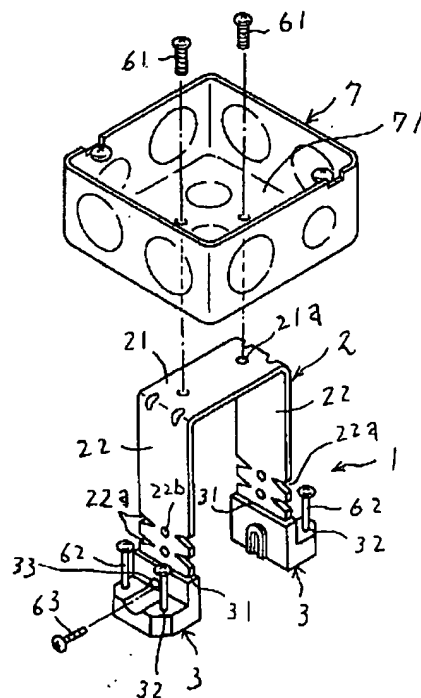
(74) 代理人 弁理士 松本 武彦

(54) 【発明の名称】 配線用ボックス固定具

(57) 【要約】

【目的】 配線用ボックスの高さ調節が可能であり、かつ錆発生のおきにくい配線用ボックス固定具を提供する。

【構成】 配線用ボックス固定具であって、コ字形に形成された板金からなる本体2とその型枠への取付台3とを備え、本体2は、その中央部21が配線用ボックスの止付部となり、ここに配線用ボックス底面にビス固定するためのビス穴21aを有するとともに、折り曲げで切断することができる複数段の切欠部22aをその両足22、22に有し、前記取付台3は、前記本体2の足端部を差し込むためのスリット31と型枠に釘止めするための釘穴32を有し、本体2と取付台3との間には仮止め用のビス穴22b、33が形成されている。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 コ字形に形成された板金からなる本体とその型枠への取付台とを備え、前記本体は、その中央部が配線用ボックスの止付部となり、ここに配線用ボックス底面にビス固定するためのビス穴を有するとともに、折り曲げで切断することができる複数段の切欠部をその両足に有し、前記取付台は、前記本体の足端部を差し込むためのスリットと型枠に釘止めするための釘穴を有し、前記本体と取付台との間には仮止め用のビス穴が形成されているボックス固定具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 この発明は、建物のコンクリート壁やコンクリート天井部等に埋設される配線用ボックスを型枠に固定するために用いられる固定具に関する。

【0002】

【従来の技術】 図4はこの配線用ボックス固定具の従来例（実開昭52-153895号公報参照）を示している。この固定具1は、ほぼコ字形に形成された板金からなり、その中央部21が配線用ボックス7の止付部となり、その両足22、22の各端部23が外側に屈曲して型枠8への取付部となっている。配線用ボックス止付部となっている中央部21はビス61を用いて配線用ボックスの底面71に固定され、型枠取付部となっている屈曲端部23は釘62を用いて型枠8に固定される。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかし、この従来の配線用ボックス固定具には、足22の長さ寸法が一定であるため取付時の配線用ボックス7の取付高さ位置の調整が出来ないこと、板金を型枠8に直接固定するために、コンクリート養生後にはコンクリート面から板金が露出し錆発生の原因になること、という問題があった。

【0004】 そこで、この発明は、配線用ボックスの高さ調節が可能であり、かつ錆発生のおきにくい配線用ボックス固定具を提供することを課題とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】 上記課題を解決するための、この発明にかかる配線用ボックス固定具は、コ字形に形成された板金からなる本体とその型枠への取付台とを備え、前記本体は、その中央部が配線用ボックスの止付部となり、ここに配線用ボックス底面にビス固定するためのビス穴を有するとともに、折り曲げで切断することができる複数段の切欠部をその両足に有し、前記取付台は、前記本体の足端部を差し込むためのスリットと型枠に釘止めするための釘穴を有し、前記本体と取付台との間には仮止め用のビス穴が形成されているものである。

【0006】

【作用】 本体の足端部に折り曲げで切断することができる複数段の切欠部があると、この切欠部を利用して足を

2

切断し足の長さを整えることにより、配線用ボックスの高さを調節することができる。型枠とともに取付台を除去すれば板金はコンクリート内に埋没した形で残るため、錆の発生が起きにくい。

【0007】

【実施例】 図1はこの発明にかかる配線用ボックス固定具の一実施例を示している。この固定具1は、コ字形に形成された板金からなる本体2とその型枠への取付台3とを備えている。本体2は、その中央部21が配線用ボックス7の止付部となり、ここに配線用ボックス底面71にビス61で固定するためのビス穴21aを有するとともに、その両足22、22部に、折り曲げで切断することができる複数段の切欠部22aを有する。取付台3は、本体2の足端部を差し込むためのスリット31（凹溝）と型枠に釘62で止め付けするための釘穴32を有する。そして、本体2と取付台3との間には、ビス63を用いて仮止めするためのビス穴22b、33が形成されている。

【0008】 コンクリート厚みと配線用ボックス厚み（深さ）を考慮して、本体2の足22の長さを出し、切欠部22aを使用してペンチ等の工具で切断することにより、足22の長さを調節する。板金の厚みは、この切断作業の容易性をも考えて設定するのが良い。このようにして本体2の足長さを調節したのち、本体2の中央部21をビス61を用いて配線用ボックス7に結合させる。一方、取付台3は予め、一方の型枠8に釘止めしておく。そして、図2に示すように、本体2の他端を取付台3の穴に挿入（圧入を含む）して、配線用ボックス7を型枠8に固定する。なお、取付台3に設けたビス穴33にビス63を差し込み、本体の足22端部に設けたビス穴22bにねじ込み、両者を仮止めしておく。これらの手順は適宜に変更してよい。

【0009】 コンクリートを打設し終わり、型枠8を外した後の状態は、図3に示すとおりである。図中、10はコンクリート部分を示し、その他の符号中、図1と同じ符号の部分は同じ部分を示す。取付台3を固定している釘62は、取付台3がプラスチック材料等の軟質材料で構成されており、内側に空洞34を有するような場合には、ペンチ9等の工具で図示のごとく振じると容易に除去できる。

【0010】

【発明の効果】 この発明にかかる配線用ボックス固定具は、以上のように構成されているため、配線用ボックスの高さ調節が可能であり、かつ錆発生のおきにくい。

【図面の簡単な説明】

【図1】 この発明にかかる配線用ボックス固定具の一実施例を示す斜視図である。

【図2】 この発明にかかる固定具を用いて配線用ボックスを型枠に固定する状態を示す一部断面側面図である。

【図3】 コンクリート打設、型枠取り外し後の状態を示す

3

4

す断面図である。

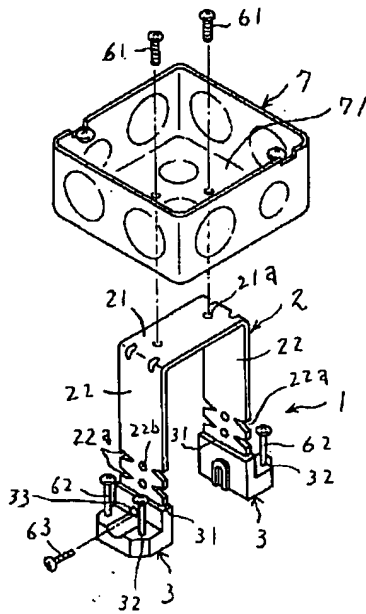
【図4】従来の固定具を用いて配線用ボックスを型枠に固定している状態を示す側断面図である。

【符号の説明】

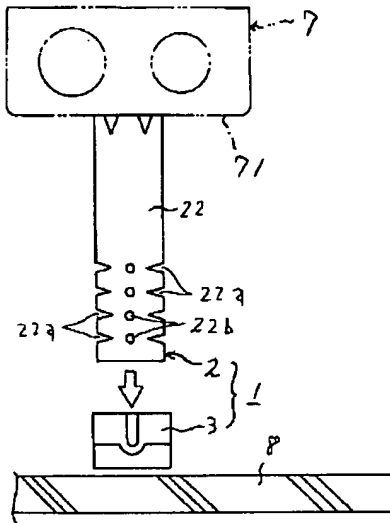
- 1 配線用ボックス固定具
- 2 本体
- 21 中央部
- 22 足

- 22a 切欠部
- 22b ビス穴
- 3 取付台
- 31 スリット
- 32 釘穴
- 7 配線用ボックス
- 8 型枠

【図1】



【図2】



【図4】

【図3】

